

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和7年3月3日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa-edu.jp/es05/>



現地を訪れて初めて分かること

(宮城県石巻市立大川小学校訪問)

校長 関口 保司

3月になりました。1年間のしめくくりの月です。そして子どもたちが最も成長する月でもあります。6年生は卒業に向けて、1年生から5年生は新しい学年への進級に向けて、しっかりと学習活動を実施してまいります。

さて3月というと私には忘れられない出来事があります。それは平成23年(2011年)3月11日に起こった東日本大震災です。当時私は青梅市の小学校で副校長として勤務していました。突然襲った激しい揺れに驚き、児童を安全に下校させるため、先生方とともに集団下校を実施しました。そして翌月に校長に昇任して以来、毎年1月には阪神淡路大震災、3月には東日本大震災のことを、必ず子どもたちに話すようにしています。

3月10日の全校朝会では、昨年夏訪れた宮城県石巻市の大川小学校について話す予定です。私は震災が起こってから、ずっと現地のことが気になり、何度も石巻市を訪問しました。ある時は個人で、ある時は家族とともに、またある時は校長先生方と一緒に現地の様子を見たり、何人もの人からお話を伺ったりしました。現在石巻市の震災遺構として保存されている門脇小学校には何度も訪れたのですが、石巻市の中心街から車で約45分離れた大川小学校には、これまで訪れることができませんでした。そしてそのことが、ずっと私には気になっていました。大川小学校は震災後に津波が押し寄せ、84人の方が犠牲になった学校です。石巻市震災遺構大川小学校のパンフレットには次のような言葉が記されています。「2011.3.11 津波は川からと陸から襲ってきました。高さ8.6mもの津波が学校をのみこんだのです。児童74名、教職員10名が犠牲となりました。大川地区全体では418名が津波の犠牲になりました。石巻市はこの事象と教訓を伝え続けるために学校を震災遺構として残しました。いのちについて考える場所となったのです。」

今までテレビや新聞等で、大川小学校のことをある程度知っていたつもりでしたが、現地を訪れた私は、改めてたくさんの方に驚かされました。学校のすぐそばを流れる北上川の雄大な流れ。海から4km離れているという距離感。校庭の前にそびえる山。そして新しい設計で建てられた校舎の無残な姿。実際に目で見て、車を走らせ、耳で聞き、肌で感じ、多くのことを考えさせられました。

今はインターネットの利用が進み、SNSや生成AI等の情報網が発達しています。しかし、どんなに情報網が発達しても、実際に現地に行かないと分からないことがいっぱいあると私は考えています。先日、本校の教員を対象に研修会を行いました。そこで、「教師として、様々な現地を訪れ、実際に自分の目や耳等の五感で感じることを大切にして考えていくことは重要です。」と話しました。これからの時代を歩む子どもたちも、様々な情報を得ながらも、実際に現地を訪れ、自分の目で見て、耳で聞いて考えていくことを大切にしてほしいと考えています。

今年度最後の月。子どもたちが大きく成長できるように力を尽くしてまいります。よろしくお願ひします。